JICA 中国事務所ニュースレター

2019 年度第 3･4 号

独立行政法人国際協力機構　中華人民共和国事務所
郵便番号 100004 北京市朝陽区東三環北路 5 号北京発展大厦 400 室
電話:+86-10-6590-9250　FAX:+86-10-6590-9260
Email:jicacn-pr@jica.go.jp

★JICA ウェブサイト(中国):https://www.jica.go.jp/china/index.html
★JICA 中国事務所ミニブログ(微博):http://weibo.com/u/3248071500
★ボランティア活動(人民網):
http://j.people.com.cn/94473/415349/index.html

内　　容

はじめに

離任のあいさつ 3
対中 ODA40 周年写真展「新時代の日中関係を築く-改革開放以来の日中経済技術協力の軌跡と成果」の開催 4
対中 ODA40 周年　総括シンポジウム「対中 ODA と日中関係　- 40 年の歴史と新たな日中協力に向けて - 」の開催 5
湖南大学にて、ODA40 年記念写真展・記念講演会開催 5
「環境にやさしい社会構築プロジェクト」　訪日研修「生態環境保護」の実施　9
「環境にやさしい社会構築プロジェクト」第 3 回日中環境ハイレベル円卓対話の開催 10
「海洋プラスチックごみの実態把握及び資源循環に係る本邦技術の活用に向けた情報収集・確認調査」　中国現地調査の実施 10
高齢化対策プロジェクト訪日研修：横浜市等を訪問 11
高齢化対策プロジェクト訪日研修：福岡市等を訪問 12
高齢化対策プロジェクト国内研修：介護人材育成教員研修の開催 14
公衆衛生プロジェクト、東京と高知県で訪日研修を実施 15
パンデミックインフルエンザ等新興/再興感染症対策プロジェクト訪日研修 .. 16
医療同窓会活動を陝西省神木市で実施 17
2019 年度課題別研修「食品安全行政」中国研修員の参加感想 18
「大気中の窒素酸化物総量抑制プロジェクト」　事後評価の実施 20
江蘇省無錫市恵山区前洲街道鉄路橋村環境学習モデル
教室建設計画事業の竣工式に参加 21
看護師隊員×日本語隊員　日本の未来の看護師を応援！ 22
新隊員インタビュー 25
訃報　緒方貞子元　国際協力機構理事長の逝去について 27

ニュースレターに関するお問い合わせはこちらまで
Email:jicacn-pr@jica.go.jp
皆様からのご感想やコメントをお待ちしております。

はじめに

新型コロナウイルスの発生・拡大を受けて

このたび、新型コロナウイルスの感染により亡くなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、感染された方々の一刻も早い回復をお祈りいたします。

そして今もまだ第一線でご活躍されている医療従事者の方たちに敬意を表し、本件が一日も早く終息することを心から願うばかりです。

現在は日本や世界各国でも感染が拡大し、懸念される状況が続いておりますが、このような時こそ日中や世界が協力し合い、全力をあげて取り組んでいくべきだと思います。

JICA では国際緊急援助として、1 月 29 日に、マスクや手袋、防護服などの緊急援助物資を武漢に届けました。今後も JICA では中国における感染症対策において必要な支援や協力を行っていきたいと考えております。

2020 年 3 月

離任のあいさつ

3 月 1 日をもって JICA 中国事務所長を辞し、日本に帰国することとなりました。

日本の中国に対する ODA は、偉大な両国の指導者たちや諸先輩たちによって開始、実施され、中国の改革・開放政策の維持・促進に貢献するとともに、日中関係を下支えする強固な基盤を形成してきました。経済インフラ整備支援等を通じて中国経済が安定的に発展してきたことは、アジア太平洋地域の安定的経済成長にも貢献し、日本企業の中国における投資環境の改善や日中の民間経済関係の進展にも大きく寄与しました。そして ODA 事業を通じて、両国間には信頼、ネットワークが培われました。

この 4 年 4 ヶ月の任期中、私が心掛けてきたことは、対中 ODA 規模が減少し終了するとしても、上の述のような成果や信頼関係、ネットワークを少しでも今後の日中関係の発展に役立て、これまでの事業の成果を記録し周知し、開発協力分野における日中間の対話や人材交流の実施を促進することでした。

その試行の一部を、『JICA 中国事務所ニュース』や中国語 SNS の『微博』での発信、中国や日本のメディアの報道を通じて、ご紹介してまいりました。皆さまから多くの激励やご助言をいただきそれを励みにしてまいりました。心よりお礼申し上げます。

後任の所長は、佐々木美穂と申します。どうぞよろしくお願いいたします。わたくし自身は、4 月 1 日より JICA 本部の東・中央アジア部長として、引き続き中国との協力に従事いたします。ひきつづきご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

最後に、現下の状況下、みなさまそしてみなさまのご家族のご健康をお祈りいたします。ありがとうございました。

前中華人民共和国事務所所長
現東・中央アジア部部長
中里太治（なかざとたいじ）

対中 ODA40 周年写真展「新時代の日中関係を築く-改革開放以来の日中経済技術協力の軌跡と成果」の開催

12 月 7 日（開幕式）から 13 日まで、清華大学主楼 1 階ロビーにて、写真展が開催されました。特に若い世代にこれまでの 40 年の取り組みを写真と文章で紹介するもので、期間中は清華大学の学生やこれまでプロジェクトを一緒に行ってきたカウンターパート機関からの見学がありました。40 年間という長い期間に行われた活動すべてを展示することはかなわず、紹介できたのはその一部でしたが、取り組みを知っていただくよい機会になったと感じております。写真展の展示データは中国事務所 HP にも掲載しておりますのでご関心のある方は下記ページをご訪問ください。

対中 ODA40 周年に係る展示（PDF/1.56MB）
https://www.jica.go.jp/china/office/others/pr/ku57pq0000226edm-att/oda_40th.pdf

展示会の様子

細貝瑞季

対中 ODA40 周年　総括シンポジウム　「対中 ODA と日中関係　- 40 年の歴史と新たな日中協力に向けて - 」の開催

2019 年 12 月 11 日、北京の日中青年交流センターにおいて、「対中 ODA40 周年　総括シンポジウム」を開催しました。シンポジウムの中では、中国の改革開放、経済成長における日本の ODA の貢献や成果を振り返り、対中 ODA を通じて培われた相互理解や信頼関係を踏まえた新たな日中の協力の在り方や可能性を議論しました。参加者は 150 名以上と盛況で、ODA 関係者や研究者だけでなく、日中関係に関心のある大学生も多く参加しました。こうした若い世代にとって、さらなる日中友好関係の深化を考えるよい機会となったと考えています。

パネルディスカッションの様子

多くの人にご参加いただきました

加治貴

湖南大学にて、ODA40 年記念写真展・記念講演会開催

湖南大学・設計芸術学院との協力により、ODA40 周年記念写真展を湖南大学にて開催しました。

開幕式では、湖南大学関係者、日本大使館経済部林参事官、湖南省科学技術庁元国際合作処・魯華元処長、長沙市で水泳指導を行っていた土岐典広元隊員（現・JICA 中国事務所企画調査員）、JICA 中国事務所初代所長の八島継男氏などが挨拶に立ち、これまでの協力と今後の日中協力に向けた期待を豊富なエピソードを交えて語っていただきました。一つ一つのお話が大変心温まるものでしたが、今回は湖南大学のエピソードについてご紹介します。

「40 年前、中国における工業デザインは、白紙の状態だった」と開幕式の冒頭挨拶に立った何人可設計芸術学院長は、最初に語りました。改革開放初期において、中国は当時立ち遅れていた工業デザイン発展を目指し、日本に専門家の派遣を要請し、その受け入れ先として選ばれたのが湖南大学でした。1 か月の短期専門家が計 4 名、そしてデザイン関係の機材供与がなされた、規模としては決して大きくない協力でした。しかしその後湖南大学は日本との交流も続けながら、今では中国でも有数の工業デザイン専門学院を擁するようになりました。この日中協力の縁が設計芸術学院に今でも記憶されており、今回 40 周年写真展を共催することとなりました。

今回写真展と同時開催した記念講演には、当時専門家として派遣された永田喬・千葉大学名誉教授を招聘し、当時のエピソードや、今後のデザイン界への期待などを講演いただきました。永田名誉教授が、当時指導した学生のデザイン作品を写真で紹介すると、なんと設計芸術院はその作品を今でも大事に保管して会場に持参していました。また、今回企画を担当してくれた湖南大学設計芸術院の劉夢非助教授は、当時日本語の通訳として日中協力に参加したお母様が、その後千葉大学でデザインを学ぶことになったため同行して千葉で育ち、その後ご自身も千葉大学でデザインを学ばれたそうです。ODA をきっかけとした日中の人と人の交流が、世代を超えて続いている素晴らしいケースだと感じました。日中関係をこのように大切にしている湖南大学設計芸術学院と、時を経て協力の機会を得られたのは、JICA 事務所員として大変嬉しく感じます。

当時派遣されたもうお一人の専門家、吉岡道隆・元筑波大学教授は残念ながら鬼籍に入っておられますが、湖南大学設計芸術学院の四合院と呼ばれる教室の中庭には、吉岡元教授が植えたガジュマルの樹が、今では大きく枝を広げています。

湖南大学で展示した内容を基に北京でも写真展を開催し、以下のホームページにデータを掲載しています。

https://www.jica.go.jp/china/office/others/pr/ku57pq0000226edm-att/oda_40th.pdf

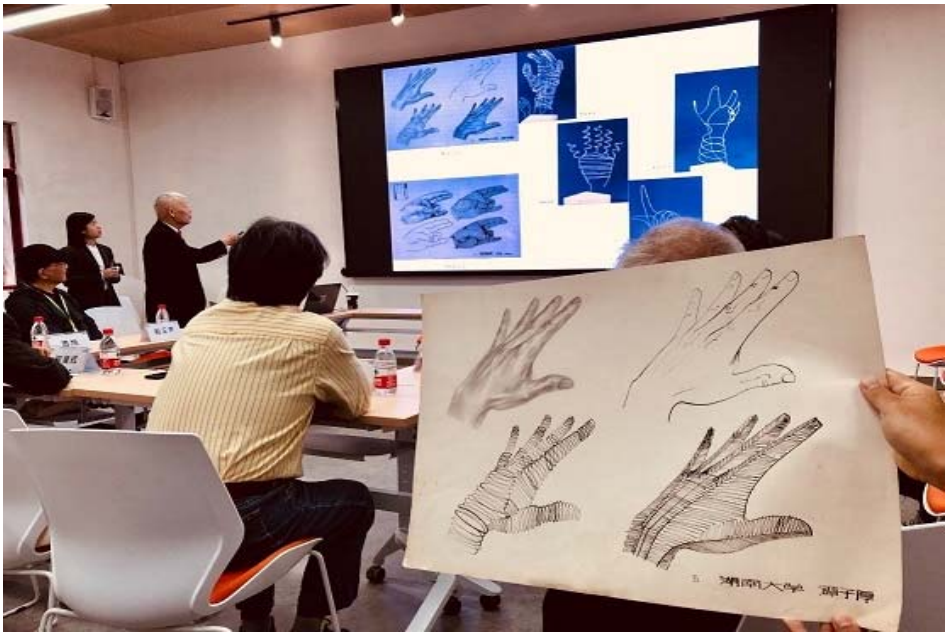
1982 年湖南大学で実施された工業デザイン研修コースに参加した研修員の集合写真。左から第 5 番は JICA 専門家の吉岡道隆元筑波大学教授、第 3 番は永田喬千葉大学名誉教授

ODA40 年記念写真展･開幕式に出席した日中関係者

ODA40 年記念写真展･開幕式で湖南省との協力を回顧する JICA 中国事務所初代所長の八島継男氏

長沙市で水泳指導を行っていた土岐典広元隊員とカウンターパートの方が当時のエピソードを披露

↓ODA40 年記念写真展･会場の様子↓



永田喬・千葉大学名誉教授の記念講演。スクリーンに映っているのが、永田名誉教授が持参した当時指導した学生のデザイン作品の写真。手前右の図は湖南大学に残されていた実物です。

吉岡元教授が植えたガジュマルの樹が、今では大きく枝を広げています。

糟谷良久

「環境にやさしい社会構築プロジェクト」　訪日研修「生態環境保護」の実施

2019 年 10 月 9 日～18 日、「環境にやさしい社会構築プロジェクト」の訪日研修「生態環境保護」を実施しました。生態環境部や地方の生態環境庁等から計 20 名の政府関係者が参加し、日本の環境行政と日中環境協力についての研修や霞ヶ浦における水質保全の取り組み、北九州市や川崎市の産業公害対策、みやま市バイオマスセンター、水俣市村丸ごと生活博物館頭石地区における自然環境や文化を生かした村おこしの取り組み等を視察しました。同研修は日本の環境保全に関する幅広い取り組みを紹介するもので、中国側からも高い評価を頂いており、来年度も実施予定です。

水俣市村丸ごと生活博物館頭石地区で、住民と中国の地方の状況について情報交換

水俣市水俣病資料館での講義の様子

川崎市環境総合研究所でも研修。同研究所の隣にあるキングスカイフロント東急 REI ホテルに設置されている大型純水素燃料電池も視察

加治　貴

「環境にやさしい社会構築プロジェクト」第 3 回日中環境ハイレベル円卓対話の開催

2019 年 11 月 25 日、東京において「第 3 回日中環境ハイレベル円卓対話」が開催されました。これは、現在実施中の技術協力プロジェクト「環境にやさしい社会構築プロジェクト」の活動の一つです。本対話の冒頭では小泉進次郎日本国環境大臣と李幹傑中国生態環境部長が発言し、気候変動分野や海洋廃プラスチック問題等、今後の日中環境協力の方向性を確認しました。その後、海洋プラスチック問題と環境技術交流について参加者が意見交換を行いました。本対話は日中の政府関係者だけにとどまらず民間企業等にとっても有益な交流の場であり、来年度以降も継続していく予定です。

小泉環境大臣と李生態環境部長

議題 2　「環境技術交流」におけるパネルディスカッション。JICA 天野雄介理事（左端）がモデレーターとして参加

加治　貴

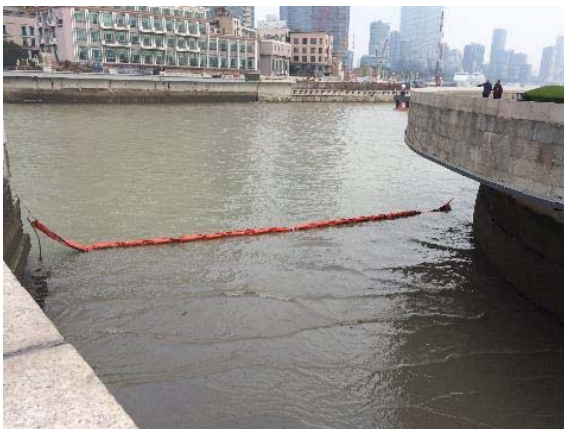
「海洋プラスチックごみの実態把握及び資源循環に係る本邦技術の活用に向けた情報収集・確認調査」　中国現地調査の実施

現在、弊機構では、中国とタイ、ベトナム、インドネシア、フィリピンを対象に、「海洋プラスチックごみの実態把握及び資源循環に係る本邦技術の活用に向けた情報収集・確認調査」を実施しています。各国の海洋プラスチックごみに対する取り組みや汚染の状況を確認し、今後の協力の方向性を検討することを目的としています。2019 年 12 月 10 日～18 日には中国で現地調査を行い、生態環境部やプラスチック再生利用委員会、研究者、NGO 等と意

見交換、上海でのごみ分別の現状視察を行いました。今後、この現地調査の情報を基に、海洋プラスチックごみの解決に向けた中国における弊機構の取り組みを検討していく予定です。

上海市では、生活ごみを生ごみと乾いたごみ（紙類、汚れたプラごみなど）、リサイクルごみ（缶、瓶、PET、衣料など）、有害ごみ（電池など）の 4 種類に分別

上海市内の河川では、プラスチックごみ等はほとんど見られない



高齢化対策プロジェクト訪日研修：横浜市等を訪問

2019 年 10 月 14 日から 5 日間にわたり、当プロジェクトでは 7 回目となる訪日研修を実施しました。今回は横浜市を拠点に、中国民政部養老服務司の若手官僚等 5 名が参加しました。

10 月 14 日（祝）北京から羽田へ

10 月 15 日（火）横浜市役所健康福祉局、横浜市麦田地域ケアプラザ、社会福祉法人横浜市福祉サービス協会

10 月 16 日（水）厚生労働省老健局、公益財団法人中国残留孤児援護基金、NPO 法人中国帰国者・日中友好の会「一笑苑」江戸川

10 月 17 日（木）医療法人社団廣風会ラ・クラルテ、湘南医療福祉専門学校

10 月 18 日（金）総括会、中国へ帰国

高齢化政策というテーマを念頭にした今回の研修の特徴は、国レベルと地方自治体レベルの政策面を比較しながら学びを深めたこと、社会福祉法人や公益財団法人、医療法人社団など異なる形態のプレーヤーに幅広くふれられたことが挙げられます。多くの訪問先では質疑応答が白熱し大幅に予定の時間を超過するなど、研修団員の真摯な姿勢が見られ、また受け入れていただいた訪問先の皆様にも大変丁寧に対応していただくことができました。

限られた時間の中ではありましたが、研修に対する団員の満足度は総じて極めて高く、非常に充実した 5 日間となりました。

高齢化対策プロジェクト訪日研修：福岡市等を訪問

2019 年 12 月 16 日から 5 日間にわたり、当プロジェクトでは 8 回目となる訪日研修を実施しました。今回は中国民政部養老服務司、北京社会管理職業学院から 6 名が、福岡市を拠点に北九州市、中間市、春日市などを訪問しました。

12 月 16 日（月）北京から福岡へ（大連経由）
12 月 17 日（火）北九州市保健福祉局、JICA 九州センター、株式会社西日本医療福祉総合センター（ウエルパークヒルズ）
12 月 18 日（水）株式会社ケアリング（筥崎支店、城南支店）、福岡介護福祉専門学校
12 月 19 日（木）クローバープラザ（福祉用具展示室、生涯あんしん住宅）、一般財団法人福祉サービス評価機構（SEO 財団）
12 月 20 日（金）総括会、中国へ帰国

今回、訪日団は初めて九州を訪問しました。北九州市役所では「健康長寿を合言葉に高齢者が主役になるまちづくり」をテーマに、北九州市いきいき長寿プランなどの取り組みを紹介していただきました。また、総合的福祉施設、看護小規模多機能居宅介護施設、グループホーム、デイサービスセンターなど、民間事業者が運営する数多くの介護施設、介護人材育成学校や福祉用具展示の現場を視察できたほか、日本の介護保険制度に造詣が大変深い法人による講座の聴講など、非常に濃密な 5 日間となりました。

中国における政策立案や人材育成の場面に数多くのヒントをいただくことができました。講座や視察の内容もさることながら、無償で大量の資料をご提供いただいたところ、お菓子に手作りの折鶴を添えていただいたところなど、福岡県の皆様のホスピタリティに直にふれることができ、とても友好的な交流の機会ともなりました。

高齢化対策プロジェクト国内研修：介護人材育成教員研修の開催

2019 年 12 月 3 日から 3 日間にわたり、民政部研修センター（北京社会管理職業学院の敷地内）にて、介護人材育成教員研修を開催しました。1 日目、2 日目は日本側手配による日本人講師等の講演、3 日目は中国側手配による中国人専門家による講演で構成されました。参加者は中国全土から 42 名、その多くは中国各地に点在する職業学校の教員などでした。今回の研修は、日本式介護のエッセンスを取り入れた教員研修を実施し、中国における介護人材育成強化への一助となることを目指すものでした。

特に、日本で介護福祉士養成校の教員を対象とした研修実績のある「日本自立支援介護・パワーリハ学会」より、2 名の講師を日本からお招きしました。1 日目午前、日本で実施された教員研修のコンテンツのうち、今回は“自立介護支援概要”と“水分ケア”について講演をしていただきました。この講演内容を中国の現場でも実践していただくため、プロジェクト事務室より各受講生に三信加工株式会社の「みまもりマグ」を贈呈しました。

三信加工株式会社　みまもりマグ
https://www.jica.go.jp/project/china/015/news/20190212_02.html

さらに、北京、上海、青島などを拠点に事業展開をされている日系企業の方たちにも登壇いただき、日本における住宅改造、介護施設管理者の役割、介護人材育成、認知症ケアのポイント、機能訓練と生活リハビリなど、幅広く日本の介護の知見を伝えていただきました。

このほか、2019 年 10 月の訪日研修（横浜）参加者のうち北京社会管理職業学院の専任教師が研修報告を実施し、同じ職業学校の教員たちに向けて訪日研修の成果をフィードバックしました。最終日は中国側（民政部研修センター）の手配により、2 名の中国人専門家が登壇しました。

↑JICA 中国事務所糟谷次長が開講式にて
←研修センター前で集合写真

↑パワーリハにおける自立支援の考え方は中国のケアと考え方に違いがあります
→パワーリハの基本は水分補給。水分補給が高齢者にとり如何に大切かという話は大変参考になりました

日本からお呼びした先生たちには、パワーリハの考え方やその取り組みについてご説明いただきました。

臣川元寛　高齢化対策プロジェクト専門家

公衆衛生プロジェクト、東京と高知県で訪日研修を実施

2019 年 11 月 25 日から 12 月 4 日まで、国家衛生健康委員会の 5 名、広東省、雲南省の衛生健康委員会から 2 名、中国疾病コントロールセンターの 7 名の計 14 名が訪日研修に参加しました。本研修は順天堂大学国際教養部に委託し、同学部の湯浅先生が中心となりカリキュラムの調整や全体の総括等が行われました。最初の導入部分では、日本の公衆衛生の歴史、政策、母子保健の政策などの座学が行われ、戦後の保健婦や生活改良普及員(女性)の活躍が地域保健の改善と促進に大きな貢献があったこと、事例として、地域医療の推進を強力に展開した長野県佐久病院の取り組みや日本のチベットと呼ばれた岩手県沢内村の活動が紹介されました。国立保健医療科学院の先生や帝京大学の高橋先生などからも日本の政策や法律に関し具体的な紹介が行われ、大変理解しやすい内容で、研修員からも積極的に質問があり交流が活発に行われました。

順天堂大学にて

総括会の様子。研修全体に対するディスカッションがおこなわれました

私自身は同行できませんでしたが、高知県での現場視察や後半の研修も非常に充実していたことがアンケート結果から伺えます。特に地方自治体における医療スタッフの育成や母子感染対策、健康教育教材の開発は今後中国でも非常に重要であることが挙げられていました。

短い研修期間ではありましたが、日本の国の制度政策、地方行政の実践の現場、研究機関等と行政の連携など全体像を理解し、現場の取り組みを視察できたことは大きな収穫であったと思います。

内山　智尋

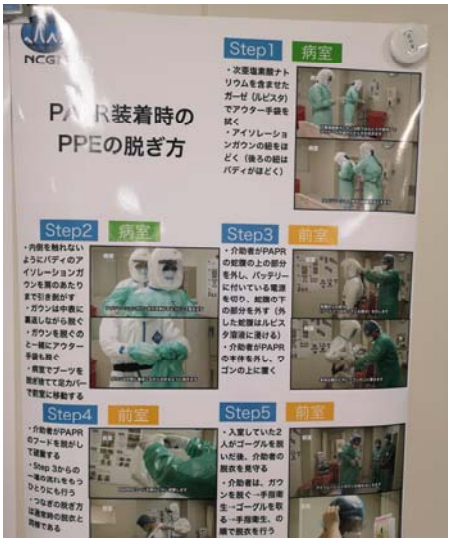
パンデミックインフルエンザ等新興/再興感染症対策プロジェクト訪日研修

パンデミックインフルエンザ新興/再興等感染症対策プロジェクトの活動の一環として、12 月 3 日～12 日まで、中日友好病院の医師 6 名とプロジェクトモデル病院の医師 10 名が、10 日間にわたる訪日研修に参加しました。本研修は昨年と同様日中医学協会に委託し、全体の調整や総括等が行われました。カリキュラムの内容や流れ、講師陣のレベルの高さなど、研修員は皆大変満足していました。

今回の研修員は地方からの参加者が多く、半分以上は病院のリーダーであり、感染症対策以外に、病院の管理等の知識も求められたため、静岡ガンセンターや、国立国際感染症センター、横浜保土ヶ谷病院の視察を通して、病院管理について話を伺ったり、現場の医療関係者と直接意見交流をする機会も持ちました。

昨年と違って、今回は自習時間を設け、三グループに分かれ（中日友好病院 1 組、モデル病院院長 1 組、モデル病院医師 1 組）、討論や意見交換を行いました。また、事前に国立国際医療研究センターの大曲先生（研修内容総括）への質問を研修員に提出

してもらい、最終日の総括会の際、大曲先生より丁寧に回答していただきました。そして三グループよりそれぞれの視点から感じたことを PPT にまとめ発表する機会を持つなど工夫をしたことで、総括会での議論は深まり非常に有意義な時間を過ごすことができました。研修員達からも JICA や日中医学協会、研修に携わった皆さんに感謝の意が述べられました。



写真で分かりやすく防護服の装着について説明している

研修を振り返ってのグループワーク

裴瑾

医療同窓会活動を陝西省神木市で実施

2019 年 12 月 20 日から 21 日にかけて陝西省神木市医院において医療同窓会活動が実施されました。この活動は日本を訪問した医療分野の研修生が帰国後に同窓会を立ち上げ、2006 年から継続して実施されている活動です。これまで北京郊外や甘粛省、河北省、山西省、雲南省、海南省、青海省、貴州省、内モンゴル自治区など全国各地の貧困地域に出向き、無料問診活動や現地の医療スタッフへの OJT、講義活動などを行ってきました。

今回は神木市という中国の石炭の産地として有名な都市を訪ねました。この石炭のおかげで昔から医療費や教育費を低く抑えることができ、街全体もきれいに整備されており住民に

とっては大変住みやすい環境だと感じました。コミュニティにある小規模な医療センターを見学する機会がありましたが、小さいなりにも設備が完備され、とても衛生的で、管理が行き届いていることがよく分かりました。同窓会の活動として、北京から同行した先生たちによる OJT や講義、意見交換が行われました。活動は実質一日だけ、少し物足りない感じもしましたが、北京から参加した先生方にとっても地方の状況を理解し、自分の役割を再確認する貴重な機会であったのではないかと思います。

←北京から同行した医師(右)と交流する現地の医師

内山　智尋

◆以下では、JICA の課題別研修制度を利用して訪日研修に参加した研修員の感想を紹介します。

2019 年度課題別研修「食品安全行政」中国研修員の参加感想

中国薬科大学　曹崇江

研修員たちが自分の国の状況を紹介するカントリーレポートの発表会

2019 年 9 月 29 日-10 月 29 日の期間、私はカンボジア、パラグアイ、インドネシア、旧ユーゴスラビアのマケドニア共和国、タジキスタンなどからの 9 名の研修員とともに JICA の食品安全行政研修コースに参加した。この研修コースでの学習を通じて、日本の各分野、各段階での食品完全関連政策、制度、基準および関係政府機関間の連携と運営メカニズムを体系的に理解することができた。研修のカリキュラムには日本の食品安全管理政府組織の枠組みと職責、食品包装と表示規則、食品衛生管理と監視、食品リスク分析と規制、大型食品物流センター食品安全規制、食品衛生自主管理と

監視システム、食品輸出入検査検疫、肉類加工安全管理、農産物薬品肥料登録システム、学校食品安全管理システム、地方官庁の食品安全管理など 20 以上のテーマが含まれた。

研修のカリキュラム設定は非常に包括的かつ体系的で、教室での講義から現場見学および検査と操作の体験を通じて、私たち研修員は日本が食品安全分野において先進的な経験と技術を蓄積していることを十分に認識した。その中で、食品に関する中央官庁と地方官庁の職責と分業メカニズムはわが国が学ぶに値する。日本政府の中央食品安全官庁は地方官庁との協力と交流を強化し、各種政策の体系的かつ迅速な実施を実現し、輸入食品の監視を担当し、国際協力を促進し、地方自治体に対して技術援助を行い、情報交換、教育、関連知識普及を含めて、主に国家レベルの食品監視指導計画の制定を担当している。地方政府は速やかに情報をフィードバックし、研究と検査の技術と能力を高め、人材を養成し、その能力と監視水準を高めなければならない。都道府県などの地方担当官庁は地方レベルの食品監視指導計画を制定する。地方政府に属する保健所は営業許可、現場監視指導と食品中毒の調査、収去検査、リコール実施、検査命令の実施、苦情処理、食品衛生知識普及などの権限を有している。また、食品企業の HACCP 批准と更新、および輸入食品の監視もしくは登録検査機関の批准は地方厚生労働局が担当しており、我が国の認証認可機関と似ている。日本では、国家の検査機関が食品検査を行えるだけでなく、国家に登録した非政府検査機関も検査を実施でき、国家と民間機関が共同で食品を検査する枠組みができている。

学校の校内で清掃作業を行っている小学生たち

また、日本の小学校での食品衛生管理と教育も印象深かった！ ある小学校の現場視察の過程では小学一年生が入学した時から一人ひとり自分が清掃を担当する場所が定められ（毎日 10 分間清掃）、学校全体に一人も清掃員がいなかった。また、毎日給食の前に並んで手を洗い、食事のあとは牛乳パックを自分で分解して洗って干してリサイクルに回している。各種のディテールによって日本政府が生徒の安全衛生と責任感教育を非常に重視

小学生たち自身が分解、洗浄、干している牛乳パック

していることを深く体感することができ、その場にいた研修員全員が衝撃を受けた。

研修過程で私はずっと中日両国の食品安全問題に関する違いについて比較し続けた。中国の最近の急成長で、技術力は飛躍的に発展し、食品安全分野の分析検査機器、設備、施設などハード条件は日本に並ぶか凌駕したが、ソフトの面で我々はまだ遅れており、学ばねばならない。例えば中央政府の各官庁と地方政府の食品安全分野の協働メカニズムである。食品安全をバックグラウンドとする大学教師として、私は教育の重要性を一層認識した！ 子供の時から、何事に対しても責任感と食品衛生安全に対する意識を涵養することについて、日本から学ぶことが非常に多い。

今回の研修の収穫は非常に多く、専門知識、管理方法、教育訓練など各分野で新たな認識があり、同時に日本の風俗民情、日本人の厳格、緻密、礼儀について多く理解でき、JICA が提供してくれた研修機会に非常に感謝し、中国科学技術部国際交流センター、中国科学技術部農村センターに感謝し、研修前後の JICA 中国事務所の支援、および日本滞在期間中の JICA 東京と JICA 九州国際センターの職員の各種の配慮と支援に感謝する。

研修を無事終了した皆さんの晴れ姿

「大気中の窒素酸化物総量抑制プロジェクト」　事後評価の実施

2013 年 3 月～2016 年 3 月、湖南省湘潭市を中心にして「大気中の窒素酸化物総量抑制プロジェクト」を実施しました。本プロジェクトでは NOx 抑制手法の改善を目的とし、日本の NOx 抑制技術セミナー・技術交流の開催や NOx 抑制技術導入候補企業（モデル企業）に対する技術的アドバイス、NOx 抑制に係る技術ガイドラインの作成、湘潭市の大気汚染状況の検討、シミュレーションモデルの構築・実施等を行いました。本プロジェクトの終了後 3 年目を迎え、今回、プロジェクトの成果や持続性等を確認するため実施機関等との協議と現場視察を行いました。結果、生態環境部では NOx 抑制技術及び抑制効果把握手法改善に係る経験や成果品を引き続き活用しており、カウンターパートであった職員は NOx 抑制手法に係る研修会の講師を引き続き務めていることが分かりました。湘潭市でも、モデル企業は本プロジェクトの技術的アドバイスのうち、効果が確認されたものや企業の事情に適していたもの

を継続的に実行しており、実行していない場合も本プロジェクトの経験を活かして NOx 抑制対策を進めていることが確認できました。

モデル企業の一つであるセメント工場。本プロジェクトで NOx 排出低減に取り組んだ

モデル企業の一つである電気材料製造工場。無触媒選択還元法を脱窒のために導入

加治　貴

江蘇省無錫市恵山区前洲街道鉄路橋村環境学習モデル教室建設計画事業の竣工式に参加

在上海日本国総領事館は，江蘇省無錫市恵山区前洲街道鉄路橋村において，「江蘇省無錫市恵山区前洲街道鉄路橋村環境学習モデル教室建設計画」を実施しています。本プロジェクトは，本年 9 月 1 日に無錫市において「無錫市生活ゴミ分類管理条例」が施行され，生活ゴミの分別が義務付けられたことなどを踏まえて，地域住民が体験型の環境学習に取り組むためのモデル教室の建設を支援するものです。本プロジェクトは，日本の政府開発援助（ＯＤＡ）の一つである「草の根・人間の安全保障無償資金協力」を活用しており、本プロジェクトは，最後の案件の一つとして実施されるものです。

10 月 18 日、当該事業の竣工式が無錫にて実施され、JICA 中国事務所の馮威も同行し、1979 年から開始された ODA の 40 年間における JICA 事業を紹介しました。

ご関心のある方は、以下リンクの「中国における JICA 事業の概要（2019 年 12 月版）」をぜひご一読ください。

https://www.jica.go.jp/china/office/others/pr/ku57pq0000226edm-att/summary_201912.pdf

在上海日本国総領事館磯俣秋男総領事（大使）の竣工式での挨拶の様子

磯俣秋男総領事と無錫市恵山区の範良副区長が竣工式にて

馮威

看護師隊員×日本語隊員　日本の未来の看護師を応援！

岩崎春香隊員（看護師）、高森美帆･柴山正州隊員（日本語隊員）が、山東省濱州市の濱州医学院で出前講座を行いました。

同学院の看護学科には日本語を第一外国語として学ぶコースがあり、看護と同時に日本語を勉強しています。学生たちの最終目標は、中国の看護師資格取得後、日本で日本の看護師国家資格を取得し日本の病院で看護師として働くことです。2014 年に開始以来、70 名の学生が同校から日本に渡り日本の看護師免許を取得した実績があります。

しかしながら、看護を勉強しながら日本語さらには英語も勉強しなければならないプレッシャーや、日本語の難しさに途中であきらめてしまう学生も多く、ドロップアウトせず 4 年生まで残るのは 5 人に 1 人という現状もあります。濱州市にはまだ空港もなく、高鉄も通っていないことから普段日本人と交流する機会もほとんどありません。そこで、我々協力隊が日本を目指してくれている学生達を応援し、学生達のモチベーションアップを図るべく出前講座に行ってきました。

出前講座は 12 月の週末の 2 日間を使って行いました。

<1 日目>

AM：柴山日本語隊員による日本講座

実際の日本てどんな感じかな

興味津々の学生たち

日本の病院でよく使う単語やフレーズの導入や、日本の生活の紹介をしました。初めて会う隊員達に緊張ぎみだった学生達ですが、ユーモア溢れる授業に次第に緊張も解け途中からは笑顔も見られるようになりました。

PM：岩崎ナース隊員による日本の看護体験

日本の看護師国家試験の過去問題にチャレンジしたあと、杖・車椅子に乗って患者の立場を考えてたり、日本語の AED を用いて BLS（一時救命措置）を実践したりしました。AED は中国ではまだ普及途中であり、見たことのない学生がほとんどでした。心臓マッサージについて知識はあるものの、実際に行ってみると 2 分間効果的な心臓マッサージを行う難しさに気付いたようでした。

日本語の AED を使って心臓マッサージを実践

＜2 日目＞　AM：高森日本語隊員による日本トラベルかるた大会・岩崎ナース隊員による日本のナース服の試着

未来に思いをはせる

日本トラベルかるたで日本の各都道府県について学び、その後日本の白衣会社から寄贈いただいた日本の白衣を試着しました。将来日本に行ったときにどこに旅行に行こうか、日本の病院で働く自分はどんな感じか、学生たちにより日本で生活や仕事をする自分を思い描いてもらい、わくわくしてもらおうと盛り込んだ企画です。学生たちは、夢を叶えた未来の姿に思いを馳せ、目をきらきらさせていました。

昼食：お好み焼き作り

皆作るのも食べるのも始めてのお好み焼き。パッケージに書かれた作り方を見ながら作る学生、ひっくり返すのがプロのように上手になった学生、思い思いに楽しんでいました。大量にできたお好み焼きも皆であっという間に平らげました。

お好み焼きづくり

午後：まとめ

グループに分かれて 2 日間学んだこと・体験したこと・心に残ったことを単語で挙げ、その後単語をカテゴリー分けし、分類したカテゴリーごとに説明を書き足しました。それを基に最後は各自 2 日間何をして何を感じたかの作文を書きました。

最後にみんなで集合写真

「杖の高さなど小さいことだけれど患者の回復に大きく影響することが分かった」

「日本語に自信が持てた。日本語能力検定 N1 合格に向けて頑張る！」

など、仲間と一緒に 2 日間を振り返り自分の言葉でまとめることで、今回の活動が学生たちの中にしっかりと残ってくれたようです。

今回「日本を目指す学生を応援したい」という目標のために、看護師隊員と日本語教育隊員が異なる知識や経験を出し合い、組み合わせ、有意義で新鮮な活動を作り上げることができました。職種の垣根を越えてのコラボレーションで、お互いの理解も更に深まったことはもちろん、多くの学びを得ることもできました。

最後に、今回参加してくれた学生たちは皆とても真面目で、看護と日本語と英語を同時並行で勉強しているという優秀さで、まさに中国の希望だと感じました。彼らの姿を見て、私達も頑張らなきゃいけないと元気づけられました。

青年海外協力隊

岩崎春香　看護師　北京　中日友好病院派遣

高森美帆　日本語教育　湖北省　黄岡市外国語学校派遣

柴山正州　日本語教育　内蒙古自治区　カールチン第三高校派遣

新隊員インタビュー

11 月 29 日に新隊員 4 名が北京に到着、北京での訓練を終え、昨年末に任地に着任しました。

八丁　文子　〈日本語教育〉　貴州省凱里市　凱里実験高級中学　派遣
矢部　紬　〈日本語教育〉　江蘇省沭阳県　沭阳建陵高級中学　派遣
梶原　大嗣　〈環境教育〉　四川省崇州市　地球村崇州環境教育基地　派遣
藤枝　優果　〈環境教育〉　上海市　上海仁渡海洋公益発展中心　派遣

新隊員 3 名に①隊員になる前のバックグラウンド･隊員に応募したきっかけ、②任地での活動概要、③2 年間の抱負、をインタビューしてみました。

1. 八丁　文子さん　（日本語教育　貴州省凱里市　凱里実験高級中学）

①中国、オーストラリア、日本で日本語教師として働いてきました。タイミング的に今が大学時代から希望していた青年海外協力隊に応募するチャンスだと思い、今回の応募に至りました。
②大学入試のための勉強に追われる学生に対して、日本語が好きになってもらえるような授業と、先生方のレベルアップを希望されています。
③学生にも、先生方にももっと日本を好きになってもらうために交流の機会を増やしたいのと、凱里料理を覚えて日本で作れたらいいなと思っています。

2.　矢部　紬さん　（日本語教育　江蘇省沭阳県　沭阳建陵高級中学）

①昨年の 3 月に大学を卒業しました。学生時代から日本語教師を目指し、日本語学校やモンゴルの高校などでインターンシップを行ってきました。大学時代、海外の高校で日本語を教えたことや海外ボランティアに参加したことをきっかけに青年海外協力隊に興味を持ちました。海

外の教育機関で日本語教育の経験を積み、海外での生活を通して自分自身の視野を広げたいと思い応募しました。

②高校 1 年生から 3 年生までの授業を担当します。主に文化紹介や会話、作文の授業などを行い、学生の会話能力の向上、更に日本や日本語に興味を持ってもらえるような活動を行います。

③活動面では、日本語の授業を通して学生に自信をつけてもらえるような活動を行いたいと思います。また、学生との交流を大切にし、もっと日本を知りたい！先生ともっと話したい！と思ってもらえるような教師になることが目標です。生活面では、町中に出てたくさんの方々と積極的にコミュニケーションを取り、中国を知ること、また中国語の上達に努めたいと思います。この 2 年間、日々成長できるよう過ごしたいと思います。

3.　梶原　大嗣さん　（環境教育　四川省崇州市　地球村崇州環境教育基地）

①今年度 23 歳になります。去年までは滋賀県の大学で環境生態学を勉強していました。また、YMCA にて子どもたちと野外活動（キャンプ、登山など）をしていました。協力隊参加のきっかけは高校時代の尊敬する教師が協力隊 OB だったことです。

②農場の魅力を伝えるツールの作成や農場内外におけるイベントや環境教育の実施です。

③活動面☞「確信度２０％でも GO！」とにかくやってみる！

生活面☞お腹を下さない！

4.　藤枝　優果 さん　（環境教育　上海市　上海仁渡海洋公益発展中心）

①日本の私立高校で 3 年間社会科教員として、勤務していました。世界中の若者が環境問題解決へ必死に取り組みを始めている中、自分も世界へ飛び出し現場で活動したいと思ったため応募しました。

②海岸清掃活動や上海市の小学校での環境教育などです。
③言葉の壁はありますが、自分がいる間に日中間の海洋ゴミの問題の共有が出来ればと思い、現在積極的にコミュニケーションをとっています。有意義な 2 年間にしたいです。

企画調査員（ボランティア事業）　中坊容子

訃報　緒方貞子元　国際協力機構理事長の逝去について

緒方貞子氏が、2019 年 10 月 22 日に 92 歳で逝去しました。

緒方氏は、国連人権委員会日本政府代表、国連難民高等弁務官などを歴任し、2003 年 10 月、国際協力事業団が独立行政法人国際協力機構に改編された際に初代理事長として着任し、以後 2013 年までの約 10 年間にわたり JICA の理事長を務めました。

任期中は理事長として 4 度にわたり訪中し、政府関係者との協議や会議出席のほか、清華大学での講演会、数々のプロジェクト視察などを行いました。四川省涼山州の視察では現場までの急峻な道をカウンターパートと励ましあいながら登ったことは、現地の方から今でも思い出話として語られます。

中国関係者の方からいただいたお悔やみのメッセージは、JICA から故人のご家族にお渡しするように手配いたしました。

故人の冥福をお祈りいたします。

↑2006 年に四川省涼山州皇崗小学校訪問

←2006 年に貴州省三都県少数民族村を視察